

プレゼンテーション シークレッツ

トパーズ 著
滝沢敦 訳



エバーハート・リーゼに捧ぐ

最高のマジックの発明家であり指導者である彼の独創的な心と変わらぬ支えが
私の人生を形作ってくれた。

私がここで伝えることは、全て彼から学んだことである。

目次

1. はじめに	4
2. 外部へのプレゼンテーション：動作理論	6
アイソレーション	6
大きな動作は小さな動作を隠す	7
手と手を糸で結ぶ	7
手を戻す時に秘密の動作を行う	7
リバース・シークレット・ムーブメント	7
簡潔さ	8
2.1 クリック	9
コインを消すときのスタート・クリック	9
拍手の合図となるポーズにエンド・クリック	10
ランチブレイク	11
2.2 現象を起こすジェスチャー	14
スタート・クリック	15
エンド・クリック	15
シュービドゥー	16
3. 内部へのプレゼンテーション：演技理論	19
3.1 犯罪として考える（キャラクター付け）	20
殺し屋（実行犯）	20
犠牲者	20
目撃者	20
キャラクター	21
よりキャラクターに入り込むために	24
3.2 インナー・モノローグ	26
3.3 自分自身を見つける	29
3.4 独特な存在になるには	32
サングラス・トリック	33
4. 理論の価値を疑う？	42
5. 推薦資料	43

Introduction

【はじめに】

1

私はマジックを常に愛してきた。

秘密を知ること、そしてそれを愛で、その内容を限られた人たちと共有するというのが好きなのだ。それに心地よい親近感を感じる。あなたにとってはどうだろうか。

マジック・コンベンションでは深夜にホテルのバーや部屋にマジシャンが集まり、特別なマジックを披露することがある。それぞれが最高だと考えるマジックだったり、仕事を獲得する際やコンテストでカギとなるようなマジック、または自分自身を象徴したマジックや、彼らを成功へと導いてくれそうなマジックだ。もしくはマジックに関して重要だと感じている事柄や、どのようにして現在のキャリアを作り上げてきたかなどを語り合う。私はこういった時間が大好きだ。その裏側に見える熱意を心地よいと感じる。マジックには、トリックや秘密を超えたところにも秘密があるのだ。

あなたはホアン・タマリッツが午前3時に暗いホテルの一室を魔法の世界に変えてしまったのを見たことがあるだろうか。私はある。あれは最高の経験だった。あのような驚くべき神秘を目撃したこと、そしてそれを可能にした達人と同じ時代に生きていることを、とても幸運に思ったものだ。

私は秘密を知りたくてマジックを始めた。そしてこの世には、とても大きな秘密があることを知った。平凡なクロースアップのアクトとタマリッツのそれとを比べてみてほしい。使う技法は、例えばカラーチェンジなんかも物理的にはまったく同じかも知れない。それでもタマリッツが演じると、本物の魔法のように感じるのだ。技術的な部分が問題なのではない。秘密はパフォーマーのパーソナリティにあるのだ。彼はもちろん魔法使いの役を演じているだけなのだが、そのやり方が特別なのだ。では普通のアクトとの違いを生むやり方とは、いったい何だろうか？ 何か特別なテクニックがあるのだろうか？

複数のマジシャンが順番にフレンチドロップを行ったら、その動きはすべて違うだろう。他のよりも不思議なものがあれば、二度目からはすぐ分かるもの、何度も繰り返すうちに良くなるだろうものなどがある。技術的な問題が解決され、パフォーマー全員がアードネスが言うところの「観客が疑いを持つことすらないように」演技できるようになったとしても、依然としてより優れたフレンチドロップというものは存在する。これは素晴らしい思考実験だ。大切なのは、これは偶然によるものではないということである。また指が長い、といった身体的な条件によっているわけでもない。そこにはマジック全般に当てはめられる動作法則があるのだ。

5 私はこの本で、マジックの動作や演技に関する特別な原理原則を提唱したい。それこそが、マジックのプレゼンテーションを優れたものにするカギを握っていると信じている。プレゼンテーションの重要性は万人が認めるところだ。プレゼンテーションがトリックよりも重要だ、というセリフは何百回も聞いたことがあるだろう。なるほど、しかしそれではプレゼンテーションの力とはどうすれば向上させられるのだろうか。レクチャーでプレゼンテーションに関して語られることはほとんどない。トリックの解説のときに、補足的に説明されるくらいだ。重要なものはずなのに、なぜ滅多に解説されないのだろうか。教えることが不可能だとも言うのだろうか？

そんなはずはない！と私は思う。プレゼンテーションに関して全てのマジシャンに当てはまる内容は、あるはずなのだ。

ではマジックのプレゼンテーション内容を、次のように分けてみよう。

外部へのプレゼンテーション：マジックの動作理論

内部へのプレゼンテーション：マジックの演技理論